

入居者インタビュー

ゆっくりと穏やかに隠居生活を楽しんでいます♪～小川方子様～

【母の介護が入居検討のきっかけ】

入居され3年になられます。

「20年近く母の介護をしたことで、自分の老後、老いと死を考えるようになりました。母の入居検討で、浜松ゆうゆうの里へ見学に行ったことがあり、その頃より長谷川保先生※を尊敬していました。母を看取った後も“ゆうゆうの里”という所が頭の片隅にあり、自分の希望する場所なのか確かめたくて、他ホームも含め色々と見学しました。都会の真ん中で生活も便利で良いが、ずっと仕事をしてきて雑踏の中での疲れる生活には、“もういいかな”と思いました。自分らしく人生をまっとう出来る場所を選びたいと強く思っていました。」と話されます。

伊豆へ入居を決められた理由を伺うと、「コテージ風の建物は“個”の生活が守られそうと思った事、自然豊かな環境は、ゆっくりと生きられそうだと感じました。見学や体験入居で何度か足を運ぶ中、いつも変わらぬスタッフの感じが心地よかったのも大きな安心に繋がり、伊豆に入居を決めたのです。」と話されます。

【予想外！思った以上に楽しい日々】

入居後の感想を伺うと、「入居前は、人間関係が一番大変ではないかと思っていました。それが予想外！色々な経験をされ、終の棲家をここへ求めてきた方、同じ人生観を持った方々に出会えました。こういう生き方もあるのだと、新鮮な刺激を感じます。ここはいつも温かな心と笑いがあり、人との付き合いを楽しんで生活しています。」と話されます。

「バスツアーに参加したり、ジムトレーニングやヨガ教室にも参加しています。月に1回2日間、今までの仕事を生かした洋裁教室を里内で始めました。洋服が出来あがる度、皆でファッションショー。ここは毎日楽しく過ごされている方が多いですね。」と新たな出会いとお付き合いを楽しまれています。

「ここへ来て、心にゆとりが出来たせいか、自然を愛でて“いいな”と思えるようになりました。今の幸せを数える方がいいです。自称“隠居生活”、これからも“お釣りの人生”をゆっくりと穏やかに、気ままにわがままに過ごしたいと思っています。」(笑)

「心を豊かにしたいと思う人にはとても良いところですよ。」そう話される小川様の笑顔がとても素敵でした。



自宅前の森がお気に入りの場所



アスレチックジムも交流の場

洋裁教室の風景



「こうしたら上手くいくわよ」



「どうかしら？」

※長谷川保先生
(はせがわ たもつ)
福祉事業家、教育者。
聖隷福祉事業団をはじめとする聖隷グループの礎を築く。
日本老人福祉財団
浜松ゆうゆうの里創設者。